

平成 31 (2019) 年度 中部環境パートナーシップオフィス運営業務 年間報告書

■ 概要版 ■

※掲載したデータは全て 3 月 13 日時点集計。

■ 運営会議の設置・開催

会議		開催日	主な議事等
中部環境 パートナーシップ オフィス運営会議	第 1 回会議	6 月 19 日	<ul style="list-style-type: none"> 運営会議設置要綱（改訂／変更なし）の確認 EPO 中部の 2019 年度業務の説明 意見交換
	第 2 回会議	3 月上旬に 書面会議	(※新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面会議を実施。) ➤ 会議資料 (2019 年度業務の報告と 2020 年度業務の事務局案) に対し委員が所定の書式に意見を回答した。
中部地方 ESD 活動支援センター 企画運営会議	第 1 回会議	6 月 25 日	<ul style="list-style-type: none"> 企画運営会議設置要綱（改訂）の確認 中部地方 ESD 活動支援センターの活動戦略方針（案）の説明 中部地方 ESD 活動支援センターの 2019 年度業務の説明 意見交換
	第 2 回会議	2 月 27 日	<ul style="list-style-type: none"> 地域循環共生圏について 中部地方 ESD 活動支援センターの 2019 年度業務の報告 2020 年度業務の事務局展開案の説明と意見交換

■ 基本業務

■ ホームページの更新及び維持管理

	URL	年間更新 回数・計	年間アクセス数(ページビュー数)		
			今年・2019 年度	前年・2018 年度	2017 年度
EPO 中部ウェブサイト	http://www.epo-chubu.jp	126 回	810,836 件	279,316 件	335,028 件
中部地方 ESD 活動支援センター ウェブサイト	https://chubu.esdcenter.jp	81 回	11,521 件	10,612 件	4,857 件

■ ウェブサイトリニューアル案の検討

サイト全体の再構成	新しい活用ツールの公開	そのほかウェブの機能活用
<p>◆「EPO中部とは」を要工夫 (閲覧者視点からの「about us」であること)</p> <p>▼▼▼</p> <ul style="list-style-type: none"> サイト全体の構成を「EPO中部とは」に連動させ、EPO中部がどのように役立つか・どんな支援を行っているかを明示する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①協働コーディネーターの紹介リスト(パンフレット) ②活動見える化プログラム ③活動支援に資するデータ集(出展可能環境イベント・リスト) ④EPO 中部関連業務の過去報告書アーカイブ(イベント索引あり) ⑤SDGsチェックリスト (ESD業務で作成) 参考) https://chubu.esdcenter.jp/2019/06/10/sdgschecklistforessd/ 	<ul style="list-style-type: none"> Facebook ページとの連動 カレンダー機能によるイベント記事の掲載方法を工夫 新しい活用ツール②⑤の活用実績の収集 など <p>※ Google など検索サイトへの登録等によるアクセシビリティ向上策も実施予定。</p>

■ 収集・蓄積等した情報・資料 (年間・計)

収集件数・計	啓発・パンフレットなど					報告書・書籍・白書など		その他	ネット検索した資料類
	森林・生物	環境教育・ESD	環境全般	ボランティア・NPO	その他パンフ	国・県・市町村	その他報告書等		
371	18	67	110	52	58	10	22	34	1,555

リーフレットの作成及び配布

- 前年度の残り在庫 500 部 : 2019 年 9 月までにほぼ配布した。
- 増刷した 200 部 : 2020 年 3 月までにほぼ配布した。
- 300 部を増刷 : 次年度から配布活用予定。



インターフェースなどを活用した会議の試行

- 11 月 20 日に、中部地方環境事務所と EPO とを結んだ遠隔会議を試験的に実施した。

【実施した結果及び課題について】

- 接続方法やツール、機器の取り扱いは簡便で、問題なく会話等することができた。
- 課題として、相手側の話し声が聞こえてくるまでに一定のタイムラグが必要とされること（ネット回線の環境・条件等によってタイムラグが長短するものと考えられる）、複数名が一斉に話した場合にはマイクが声を拾い上げできない事もあり、複数名がいる会議室とつながる場合には高性能な集音マイクが必要になることなどがあげられる。



照会・相談対応（年間合計件数）

相談件数・計	相談方法				相談主体の分類					
	電話	メール	来所	その他	初等・中等教育関係機関・ネットワーク社会教育施設等	高等教育機関・学術研究機関・ネットワーク	地方自治体・行政首長部局	公益法人 NGO/NPO 等	企業等	その他
44 件	17 件	8 件	12 件	7 件	11 件	1 件	8 件	11 件	9 件	4 件

【施設利用の状況（来館件数とメール・電話による相談・問合せ件数）】

来館件数・計	相談・問合せのための来館	会議・打合せによる EPO 施設利用の来館	その他の来館(情報収集等)	メール・電話による相談・問合せ

対話の体制の構築（年間実施合計件数）

会議・セミナー等への講師登壇、委員委嘱等の対応	自治体等との打合せ・業務説明等の場の設営	後援・協力依頼	
		EPO	ESD
15 件	13 件	3 件	8 件

施設・設備の維持管理（年間施設利用件数）

業務実施日数	開館日数)	来館者数	来館件数	メール・電話による問合せ件数
244 日	226 日	269 人	147 件	236 件

協働取組の促進のための業務

協働コーディネーターのPR ツールの活用

【改訂したPR ツール（一部ページ例）】



【PR ツールの活用】

- 昨年度作成したPR ツールを協働コーディネーターに配布し、自己紹介代わりに活用いただいているほか、本年度の8月及び11月開催の協働フォーラムにおいて参加者へ配布した。
- 今年度作成したPR ツールは、1月開催の地域循環共生圏づくりワークショップセミナーで参加者に配布したほか、協働コーディネーターへの配布、ウェブサイトへの掲載・公開を行った。

活動見える化プログラムの構築に向けた検証

【今年度実施したケーススタディ】

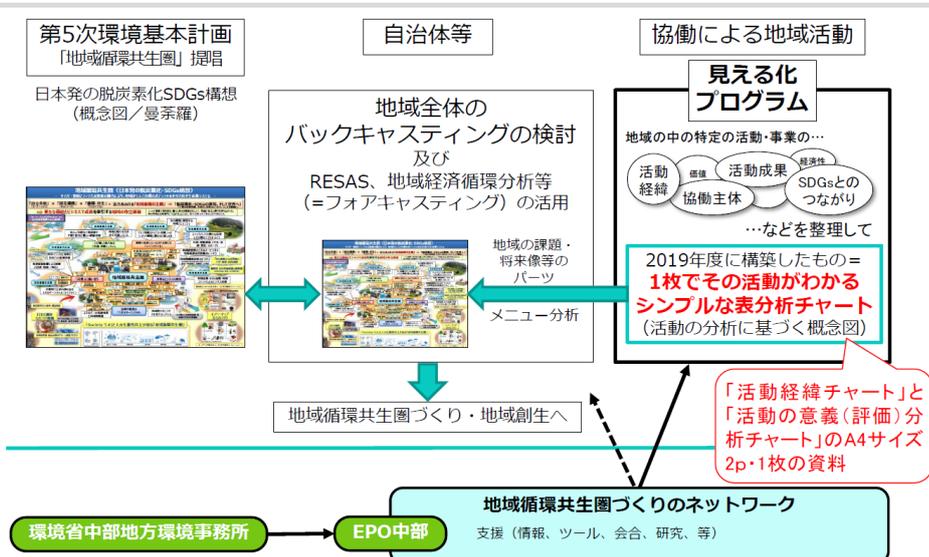
事例1	同時解決事業・里山保全体験を通じた障がい者雇用促進 (長野県飯山市)※環境省の「SDGsを活用した同時解決事業」中部採択事業 一前年度分析結果を元にその後の経緯を分析
事例2	高校と連携したアブラギリ(桐油)資源化活動 (福井県小浜市) ※協働コーディネーター・中島 阿児氏が協力
事例3	南砺市エコビレッジ構想に基づくエコビレッジプロジェクト推進(桜ヶ池モデル地区) ※南砺市エコビレッジ推進課が協力

見える化プログラムの活用

- 事例1では、市の担当者が庁内説明に活用しており、説明しやすくなり助かったとのこと。採択団体は事業紹介用ツールの中に見える化チャートを掲載活用している。
- 事例2・3では、取組内容と地域循環共生圏・SDGsとの関連性を1枚の資料で明示できるとして、関係者や住民への説明資料として活用している。
- ほか、地域循環共生圏PF事業への応募を検討していた団体から、多々ある関連の取組の中から何を共生圏事業としてアピールすべきか「見える化プログラム」で整理したいと言われた。

【概要版(簡易版)の作成】

「活動見える化プログラム」を「地域循環共生圏」に関連づけ



【作成した活動見える化プログラム概要版チャート】

例) 活動経緯チャート ※活動の意義(評価)分析チャートもセットで作成。

【事例1】里山保全体験を通じた障がい者雇用促進を目指すプログラム事業

以前の活動	活動①エコロジーオンライン	活動②NPOここから	活動③飯山館	④フォレストデザイン
名称	オンラインによるコミュニティネットワーク	障がい者自立支援	里山活用による地域活性化	里山活用による保全活動
対象課題	ITオンラインでコミュニティを活性化	障がい者の自立支援	地域活性化	里山の保全と林業活性化
活動内容	ITネットワーク活用によるコミュニティ再生活動	精神障がい者の方の共同生活による生活援助、社会交流のための施設運営	飯山コンシェルジュ、街に居ながらの山や森の中での体験教室	森林整備、環境教育、間伐材活用等の活動を展開
活動成果	環境とコミュニティをベースとした他分野にまたがる様々なプロジェクトとアクティビティの創造	精神障がい者の方の共同生活による生活援助、社会交流による自立支援	地域への来訪者増、中山間地への親しみやすさの増大	奥信濃いいやま里山体験等環境教育プログラムの運営、「いいやまの家」施設整備、丸太トーチログファイアー開発・生産・販売
連携先				
経緯	エコロジーオンラインが飯山の里山活用に着目し、関係者と「里山ウェルネス研究会」を設立、環境省「持続可能な開発目標(SDGs)を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」に選定			

①森林保全のために間伐された木材利用が進まない②障がい者雇用支援の不足③冬期の林家及び林業従事者等の収入減少の課題に対し里山ウェルネス研究会を設立。環境省「持続可能な開発目標(SDGs)を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」に選定され、関係団体を組織化しログファイアー(間伐材活用の木ろそうく)などの間伐材加工に障がい者が参画する林福連携プログラムを開発し里山地方の地域活性化を図るモデルを創出することとした活動を推進。

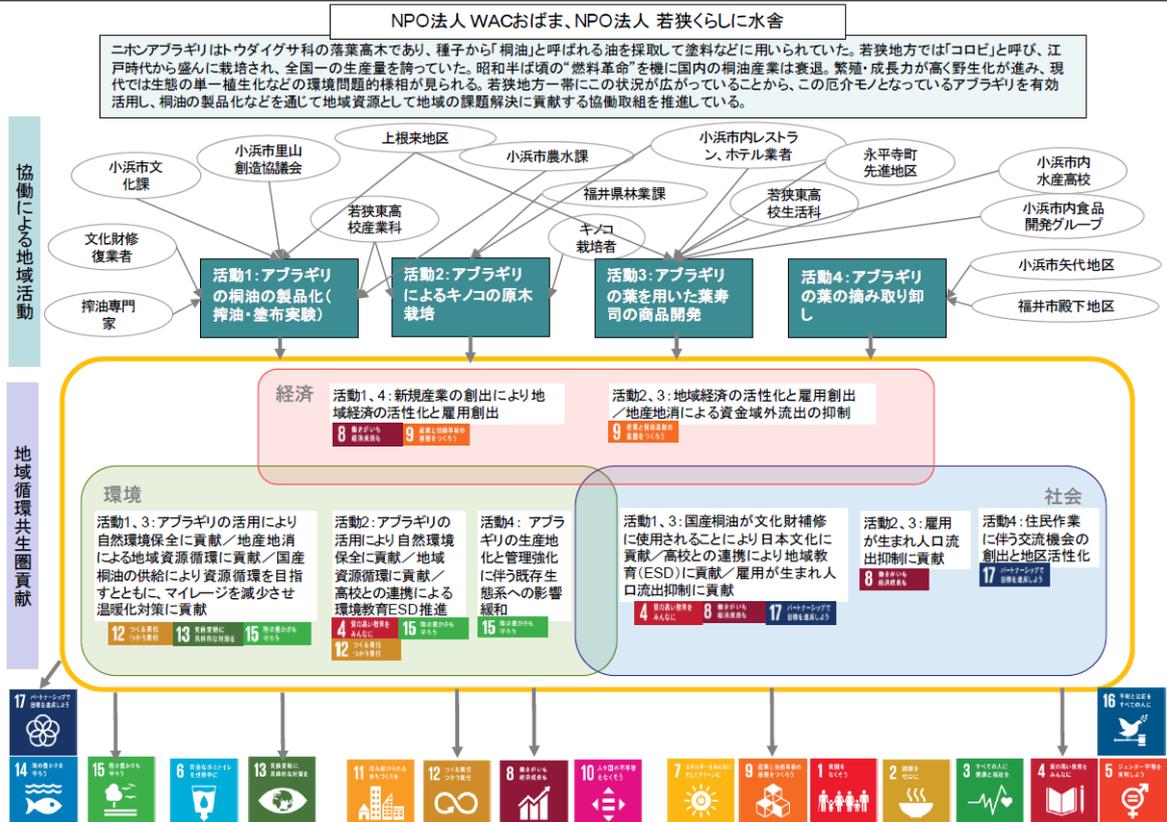
2018年4月~2019年12月

里山ウェルネス

現在の活動	活動1	活動2	活動3	活動4
名称	事例調査と実証事業の実施(プログラム開発)	説明会・報告会の開催と情報発信	製品化検討企画会議と運営体制の整備	ログファイアー製作講座の実施
対象課題	障がい者の間伐材活用木製品作成へ参加方法の検証、プログラム化	地域活動としての理解、協力の普及促進	持続可能な経済活動としての製品企画と販売体制の確立	活動意義の浸透、ステークホルダーや活動担い手の拡大
活動内容	飯山特産の木材を活用したログファイアー製作、クラフト体験の材料加工、梱包作業について障がい者の作業プログラム立案、実証	市民団体、県民、行政職員、学校等を対象とした本事業の説明会と報告会を開催/専門家によるセミナー開催/本事業内容やプログラムをとりまとめた公表/地域住民を対象にクラフトづくりやログファイアーの交流会を実施	ログファイアーの製品化、製品の開発販売活動、パッケージデザイン等議論、継続的な体制構築を検討/教育・福祉施設、キャンプ場等を対象に、使用感、他製品の要望、林福連携に対する期待等をヒアリング	地域の林業関係者等を中心とした対象にログファイアーの製作講座を実施。
活動成果	事例調査、障がい者参加による実証作業の実施により手順要領、作業治具等から成る作業プログラムを作成	・地区役員説明、交流会の実施により、事業内容を関係者に広報周知 ・地域の祭りの旗竿活用等活用分野を拡大。	・燃焼試験等により、含水率等の基準・規格等の明確化。 ・ログファイアー説明コンテンツ、PRツールを作成。	・地区住民等を対象に講座を実施し、参加者のターン人材や古民家建築事業者を活動担い手としてステークホルダー等に位置付け。
連携先	エコロジーオンライン、NPOここから、フォレストデザイン、飯山館、長野県内福祉施設	エコロジーオンライン、NPOここから、フォレストデザイン、飯山館、飯山市、長野県、森林組合、地区住民	エコロジーオンライン、フォレストデザイン、飯山館	フォレストデザイン、地区住民、地域林業関係者、古民家建築事業者
評価と課題	障がい者参加の検証の結果、作業要領の目的がたつ、プログラムが作成された。今後プログラムの汎用性を高めることが課題。	情報発信を拡大することで関係者の理解が促進された。さらなる情報発信による活動の拡大が課題。	PRツールや製品規格など活動コアが形成されつつありPRも拡大している。運営体制が必ずしも十分でなく経営の自立が課題。	林業関係者などのステークホルダー化や活動の担い手形成が進行。さらなる拡大と活動への定着が課題。

例) 活動の意義(評価)分析チャート ※活動経緯チャートもセットで作成。

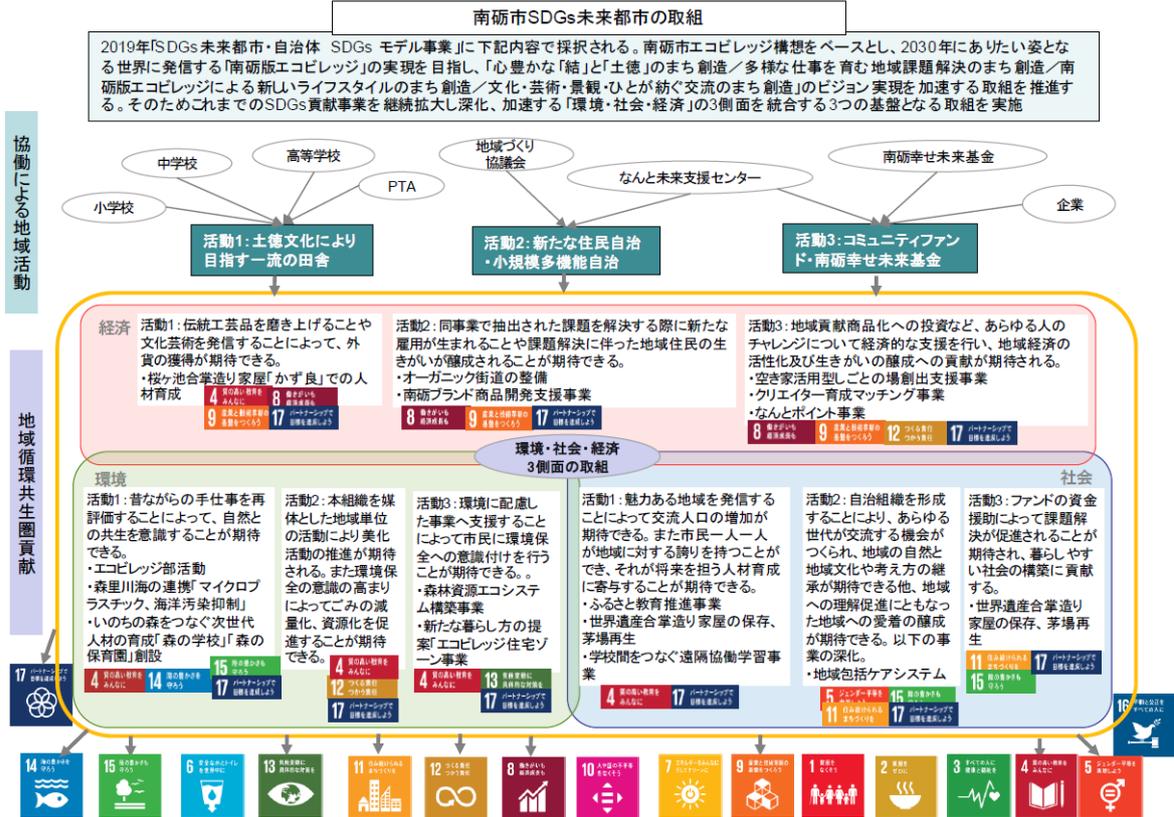
【事例2】厄介モノから地域資源へ、アブラギリを活用した高校との協働取組



例) 活動の意義 (評価) 分析チャート

※活動経緯チャートもセットで作成。

【事例3】「南砺市版エコビレッジ事業」の更なる深化へ域内外へのブランディング強化と南砺版地域循環共生圏の実装へ



■ 地域循環共生圏づくり研究会の開催

【開催した研究会】

時期	協議内容等	備考
第1回研究会 8/23	<ul style="list-style-type: none"> EPO中部・協働コーディネーターの要件(研究会の設置要綱)についての検討(結果的に十分な検討には至らず会議が終了。) 「協働コーディネーター」照会対応事例、協働コーディネーターで良かった点等を報告・共有 	11名出席
記名式アンケートの実施	<ul style="list-style-type: none"> EPO中部・協働コーディネーターの主な目的を地域循環共生圏づくり・SDGs支援であると設定のうえ、EPO(環境省)による報酬は確保・担保されない(別途EPO業務協力等は除く)ことなどを前提に、今後の参加の可否を問うアンケートを実施。 ➢ 1名が今後の参加を辞退、2名から回答なし。 研究会の方向性(ネットワークか会議体か)をたずねた設問に対し、コーディネーター13名の回答は様々であった。 <p style="text-align: center;">▼▼▼▼▼</p> <p style="text-align: center;">次年度は、協働コーディネーターを含めた地域循環共生圏づくり活動者の「ネットワーク」として展開することを決定</p> <p style="text-align: center;">▼▼▼▼▼</p> <p style="text-align: center;">アンケート結果を共有</p>	16名全員に送付 ↓ 13名からアンケート回答、継続表明あり
第2回研究会 11/22 ~23	<p style="text-align: center;">地域循環共生圏づくりをテーマにしたディスカッションの場として開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域循環共生圏づくりの事例の共有 地域環境活動を地域循環共生圏づくりへシフトさせる上で重要な要素、地域・取組主体側にとっての懸念・課題となっている要素の抽出 	8名出席
時期	協議内容等	備考
地域循環共生圏づくりセミナー 主に自治体対象の 1/31 中部地方環境事務所	<p style="text-align: center;">地域循環共生圏づくりワーキングにおいて</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 話題提供: 環境課題を地域経済・活力の創出に活用・転換する「地域循環圏」による地域の未来像の描き方について(バックキャストングについて)の講演 ② 情報提供: RESAS、地域経済循環分析による地域の現状把握について(フォアキャストングに活用可能な材料として)の勉強会 ③ 上記①②をもとに具体的なワーキング(グループワーク)を実施し、協働コーディネーターがファシリテーターとして参加 <p style="text-align: center;">▼▼▼▼▼</p>	ファシリテーターとして4名参加
第3回研究会 2/7 EPO中部	<ul style="list-style-type: none"> 上記の「地域循環共生圏づくりワーキング」の結果や、参加した自治体職員の支援ニーズ・意識(レベル)等について報告して共有 <p style="text-align: center;">▼▼▼▼▼</p> <p style="text-align: center;">ディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域循環共生圏づくり活動者が求める支援、ネットワークの展開のあり方(勉強会等の内容、情報提供等)について コーディネーター紹介用リスト(協働パンフレットへの掲載)について 	11名参加

EPO中部による地域循環共生圏づくり活動者ネットワークの次年度展開へ

【協働コーディネーターとの連携取組】

協力内容	協力コーディネーター
8月・11月に富山県内で「SDGs実践セミナー」の開催(2回開催)の共催協力	堺勇人氏
8月に石川県金沢市で開催したEPO主催フォーラムに登壇	中嶋阿児氏 茶木勝氏
11月の第2回研究会で協働取組の事例紹介	河合良太氏 蒲和宏氏
11月に長野県飯山市で開催したEPO主催フォーラムで開催協力	山田勇氏
「地域循環共生圏づくり取組事例ヒアリング」業務で対象事例としてヒアリング	茶木勝氏 河合良太氏
1月31日開催「地域循環共生圏づくりセミナー」でファシリテーター協力	坂本竜児氏 河合良太氏 三田村佳政氏 山室秀俊氏
(※ESDセンター業務)	日進市職員対象WS
「SDGsチェックリスト」活用ワークショップにファシリテーター協力	坂本竜児氏 蒲和宏氏 河合良太氏
	西濃環境NPOネットワークWS
	坂本竜児氏 中嶋阿児氏 河合良太氏

【活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集の作成・活用】

- 前年度に収集した自治体主催の「環境」をテーマにした出展可能イベントのデータについて、公開を前提にした情報確認とリスト化の整理を行った。
- また、作成したデータ集（リスト）については、EPO 中部ウェブサイト公開した。

※作成したリストの一部

名称	環境	その他		主催(構成)	NPO等の出展について		開催時期 (2018年度または2019年度の開催日)
		環境関係の 出展の有無			有無	要綱等URL	
体験と学びの環境博 —信州環境フェア2019—	●	有		信州環境フェア実行委員会(長野県、長野 県教育委員会、長野市ほか)	有	http://shinshu-kankyo-fair.com/event.html	2019年7月27日(土)・28日(日)
信州自然エネルギーマルシェ2019 in 諏訪	●	有		岡谷酸素株式会社・自然エネルギー信州 ネット・自然エネルギー信州ネットSUWA	有		2019年7月27日(土)
森とつながるエネルギー 薪ストーブ&ペレット ストーブ大集合!	●	有		自然エネルギー信州ネット	有		2019年11月17日(日)
2019クリーンレイク諏訪ふれあいまつり	●	有		クリーンレイク諏訪ふれあいまつり実行委員会	有		2019年9月14日(日)
ながの環境フェア2019	●	有		ながの環境フェア実行委員会	—		2019年9月29日(日)
第24回長野市環境こどもサミット	●	有		長野市こどもサミット実行委員会	有		2019年10月27日(日)
親子わくわくフェスタ2019	●	有		長野市教育委員会	—		2019年11月10日(日)

【SNSの活用】

- EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センター兼用の Facebook ページを 2019 年 5 月末に開設した。
(<https://www.facebook.com/EPOchubu/>)
- 主に主催イベントの開催、参加者募集案内のほか、環境省や自治体のお知らせ事項など、公開済み情報を随時、投稿するようにしている。



【中間支援機能との連携強化のためのフォーラム

(対話の場) 及び地域循環共生圏及び協働取組促進のためのグループワーキングの開催

区分	開催日	場所	登壇者(★:EPO中部・協働コーディネーター)	参加者数
第1回協働 フォーラム 北陸	8月 7日	石川県 金沢市	新 広昭 氏(金沢星稜大学 経済学部 教授) ※EPO運営会議委員 茶木 勝 氏(株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ代表取締役)★ 中 島 阿 児 氏(NPO法人WACおばま理事、NPO法人若狭くらしに水舎理事)★ 高校生チーム 石川県立津幡高等学校 朱鷺サポート隊 石川県立七尾東雲高等学校 能登ちゃべちやべ隊 石川県立津幡高等学校 園芸部	30名
第2回協働 フォーラム 信州	11月 23日	長野県 飯山市	島岡未来子氏(早稲田大学政治経済学術院教授) 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業選定団体 :根羽村、一般社団法人スマート・テロワール協会 協働事例 :里山ウェルネス研究会(同時解決事業採択団体)、山田勇氏(NPOわおん)★	29名
地域循環 共生圏 セミナー (全1回)	1月 31日	中部地 方環境 事務所	西田 清紀 氏(環境省中部地方環境事務所 環境対策課 主査) 山崎 清 氏(株式会社価値総合研究所パブリックコンサルティング第4事 業部 事業部長) ワークショップ「持続可能性のための地元担い手ワーキング」 〈進行〉原理史(環境省中部環境パートナーシップオフィス) 〈ファシリテーター〉EPO中部・協働コーディネーター4名★	33名

中部地方 ESD 活動支援センター—運営業務

PR ツール (SDGs チェックリスト) の修正・公開

- 昨年度作成した「ESDのためのSDGsチェックリスト」を実際にワークショップ等で活用して検証を行い、改善検討を行った。
- 改善して今年度新規に作成したチェックリストは「基本段階版」と「事業所活用版」の2種類である。
- 作成したチェックリストは、中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト公開した。

【SDGs チェックリスト (基本段階版)】

SDGsチェックリスト ver.1.20

監修：SDGsツール作成ワーキンググループ 2019年度 発行：環境省中部地方環境事務所 中部地方ESD活動支援センター

社会の一員として、すでに行っていることを、振り返ってみる

分類と例示	すでに行っている取組みの内容	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	合計	SDGs目標を選んだ理由	
1. 飲食・キップの提供や管理	飲食・キップの提供や管理																				
2. 低・脱炭素エネルギー利用	省エネの促進、再生エネルギー利用																				
3. 水利用と排水	節水、雨水利用、排水処理の工夫																				
4. 通勤(通学)、搬送、輸送、配達	公共交通利用、エコカー採用、ライドシェア																				
5. 調達(購入)と廃棄物処理	効率的調達、グリーン調達、地元産品、3R																				
6. 施設とその周辺	環境配慮建築、持続可能性や多様な価値観を考慮した施設や設備																				
7. 多様なメンバーの公平な参加	教育の推進、役割の公平な分担、多様な関係者の参加																				
8. 社会参加と交流	地域での連携、地域活動参加など各種コミュニティへの参加																				
9. その他の仕事(事業)などを通じた貢献																					
合計																					

※タテ項目の例示的な分類：
イギリス政府による教育政策に関する文献『新たな時代のESD サステナブルな学校を創ろう－世界のホールスクールから学ぶ』〔明石書店/永田佳之(著、監修、編集、翻訳)、曾我幸代(著、編集、翻訳)〕を参考にして設定。

【SDGs チェックリスト (事業所活用版) ※記入例案】

SDGsチェックリスト (事業所活用版)

○SDGs目標との関連チェック：①最も関係するSDGs目標(3点×最大1)、②ある程度関係するSDGs目標(2点×最大2)、③少し関係するSDGs目標(1点×最大5)

○取組み内容が関係するSDGs目標を選んだ理由 複数のSDGsが関係する場合は、それぞれその理由を右端の欄にご記入ください。

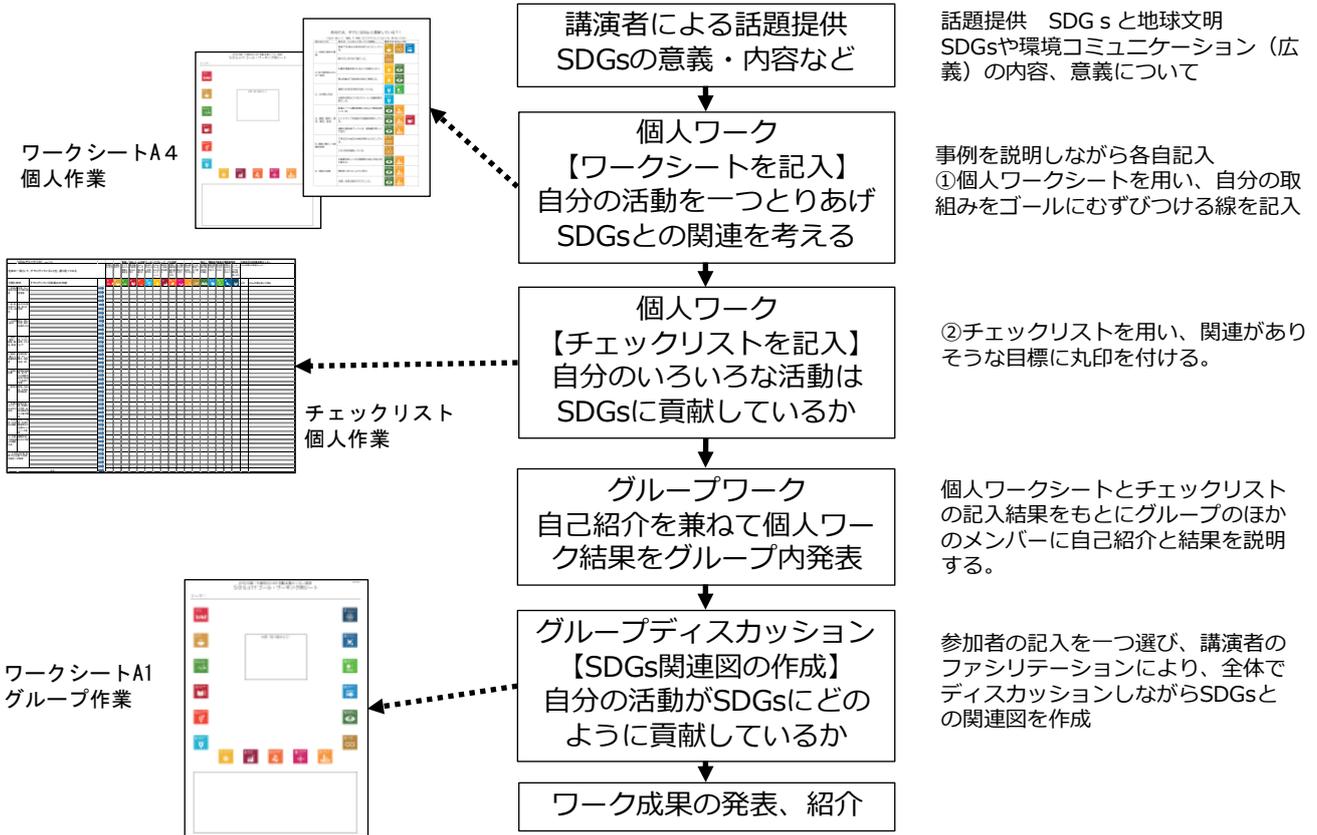
取組み分野	具体的な項目	取組み内容	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	合計	SDGs目標を選んだ理由(SDGs番号)	
製品・サービス、社会貢献	①持続可能な経済成長と社会的課題の解決	商品・サービスの品質と安全性確保、持続可能な生産・消費の促進、インノベーションによる持続可能な経済成長、など。			3					2	1	2		1							13 9 12 8 10	
	②社会参加と発展への貢献	経営理念に沿った社会貢献活動(OSR)の推進、地域社会の幅広い分野・立場の人々との交流を通じた相互理解の獲得、従業員のパフォーマンス向上、など。																			2	17 13 10 12 16
	③消費者・顧客との信頼関係、公正な情報開示	商品・サービスの適切な情報提供、消費者・顧客への偽造・不正な取引の防止、責任ある生産と消費、フェアトレード、など。													1							12 13 8
環境・社会、企業経営	④環境問題への取り組み	サプライチェーンを含む企業活動を通じた低炭素社会の形成、生物多様性の保全、など。							2		3										7 13 14	
	⑤働き方の改革、職場環境の充実、人材育成	多様な人材(外国人含む)の採用促進、差別や不平等な待遇のない雇用環境、ワークライフバランスの推進、など。									3		2									9 10 16 12
	⑥危機管理の徹底	組織的な危機管理体制の整備、サイバーセキュリティの確保、災害発生時に備えた体制の構築、軍事産業への負荷軽減、平和構築など。													3							11 13 16
⑦公正な事業展開とガバナンス	透明性の高い経営体制、企業価値の向上、持続可能なサプライチェーンの構築、など。														3		1					13 10 16
合計			1	4	9	1	2	3	7	14	4	9	11	16	2	4	4	4	3	2	98	

※タテ項目の例示的な分類：
経団連「企業行動憲章」10原則を参考にして設定。

● 貴社がSDGs達成に向けて貢献している分野
● 貴社がSDGs達成に向けて取り組むや他団体との連携が期待される分野

監修：「ESD/SDGsポイント」チェックリスト(版)作成WG
発行：環境省中部地方環境事務所 中部地方ESD活動支援センター(環境省・文部科学省)

【完成した基本段階版 SDGs ワークショップのパッケージ】



【SDGs チェックリスト作成のための専門家を含めたワーキンググループ】

● 委員構成

氏名	所属	役職
古澤 礼太	中部大学国際ESDセンター	准教授
曾我 幸代	名古屋市立大学人文社会学部	准教授
伊藤 佳世	中部大学 経営情報学部	准教授

● 開催概要（全2回）

第1回	7月17日	「ESDのためのSDGsポイントチェックリスト（基本段階版 Vr. 1.02）」の活用と検証について
第2回	10月23日	第1回を受けた基本段階版の修正と検証 事業所SDGs版と今後の取り扱い

■ SDGs チェックリストを活用したワークショップの開催

第1回	5月28日	日進市役所職員向けESD基礎研修にて実施（10：00～12：00日進市役所第5会議室）
番外	6月15日	岐阜県温暖化防止活動推進センターが主催する地球温暖化防止活動推進員向け研修会として実施（12：45～15：45JR岐阜駅ハートフルスクエアG中研修室）
第2回	8月29日	名古屋青年会議所SDGs実践委員、山本屋：青木氏と連携して実施（大久手山本屋15:00～16:30 90分）（対象はうどん店の店主、業界関係者、一般市民）
番外	8月31日	日本体験学習研究所(JIEL)★ 講演に合わせて実施（名古屋市内13:15～14:15 60分）
番外	11月25日	日進市役所職員向けESD基礎研修にて実施（日進市役所第5会議室10:00～12:00 120分）（第1回とは別メンバー）
第3回	12月14日	西濃環境NPOネットワーク★（大垣市内16:00～18:00 120分）

★：地域ESD拠点または拠点を含む団体

【ワークショップ等による検証結果】

改善型チェックリストを用いたワークショップの効果

- 様々な対象について新しい気づきが見られ、ESD効果は大きい
 - ・あまり知らない一般の人（初心者）にも効果があることが確認された
 - ・専門家などSDGsやWSに懐疑的、批判的な参加者については効果に限界がある
- 注目される気づき
 - ・SDGsは関係ないと思っていたが実は関係があること
 - ・業務が複数のSDGsに関連していること
 - ・これまで気づいていなかった関連性があること
- パッケージとして使うことで取扱いがしやすくなると考えられる

課題と対応の方向

- 課題
 - ・ネガティブイメージを形成する可能性もある
 - ・無理やり紐づけているという意識に抵抗が発生する場合がある
 - ・トレードオフの場合が発生する
 - ・内容がわかりにくい（SDGsそのものの理解？説明？）
- 対応の方向
 - ・SDGsが一種の理念であることを提示した方がよいか？
 - ・負の影響についてしっかり説明する
 - ・トレードオフの場合について説明をする

■ ESD 推進のためのダイアログ（対話の場）及び ESD 推進ネットワーク地域フォーラムの開催

区分	名称	開催日	場所	主な内容・テーマ等 ★：開催・登壇に協力いただいた委員	参加者数
第1回 ダイアログ	企業や団体のSDGs推進のためのESD～職員意識が組織・地域を変える～	6月13日	福井県 福井市	企業・自治体によるSDGsに関わる取組発表	24人
第2回 ダイアログ	北信越ユネスコスクール交流会in金沢 2019	8月8日	石川県 金沢市	北信越のユネスコスクール関係者が集まり、取組事例・情報等を交換 ★加藤先生による企画開催協力	54人
第3回 ダイアログ	ユネスコエコパークを活かしたESDによる地域創生	11月16日	長野県 飯田市	「ESD×ユネスコエコパーク×地域創生」をテーマに南アルプスBRほか教育・公民館等関係者が交流 ★水谷先生ご講演	36人
ネットワーク 地域 フォーラム (全1回)	世代間交流によるSDGs貢献のための人づくり	11月4日	愛知県 名古屋市	企業によるSDGsの取組紹介、高校生による活動発表、世代間交流によるSDGsワークショップを実施 ★伊藤先生ご講演	52人

■ 全国 ESD センター等との連携、地域 ESD 拠点登録支援等

後援名義申請対応	新規の地域 ESD 拠点登録申請対応
8 件	8 件

■ 地域 ESD 拠点のニーズの把握

■ 地域ESD活動推進拠点へのヒアリング

	地域ESD拠点登録団体	実施日	ヒアリング項目
愛知県	豊橋ユネスコ協会	7月16日	● ESD活動の経緯と現状
愛知県	(一社)日本体験学習研究所	8月31日	● 拠点登録の経緯と効果 ● 他の拠点や団体との交流や連携
三重県	(一社)ネクストステップ研究会	11月23日	● 今後のESD推進ネットワークのあり方

【ヒアリング結果の主な内容】

- 環境省の後ろ盾はブランド力がありESD活動の展開に有効。
- 既存の活動に加えた拠点登録についての新たなメリットは感じていない。
- 中央の情報など発信をもっとしてもらいたい。交流、人材派遣・紹介などに期待している。
- 子どもも大人もESDの更なる展開が社会的に重要。

(事務局イメージ)

案1: 拠点メンバーをメイン対象者とした「身近なESD問題ワークショップ」

案2: 最新情報のメール配信(全国センターからの配信、既存メルマガと重複しない情報)

案3: 登録拠点と連携したESDダイアログ、SDGsセミナー等の開催

■ 「同時解決事業」における地域支援事務局業務

【概要】

- 中部採択団体：里山ウェルネス研究会（長野県飯山市）
- 間伐材の丸太に複雑な切込みを施して火をつやすくした「ログファイヤー」（丸太ロウソク）の製造を障がい者の手を借りて行う仕組みづくりを考え、林業活性化と障がい者福祉の両立を目指す。

【EPO 中部による伴走支援】

- 市（行政）や林業・福祉関係者等が参画する協議会（4回開催）で事業・活動に対するアイデアや、2年間の活動成果を抽出・整理するディスカッションの実施支援、必要資料の作成を行った。
- また、11月23日開催・EPO中部主催フォーラムに、採択団体が登壇して事業PRを行う企画を盛り込んだ。
- 2020年2月23日開催・全国ギャザリング（成果報告会）で取組内容の発表と下記のプレゼン用資料の作成などを行った。



■ EPO 中部のこれまで集積したネットワーク及びノウハウの整理

- 第4期までのEPO中部が集積した中間支援組織の関わる事例等の活用方法について、EPO中部運営会議、中部地方ESD活動支援センター企画運営会議の委員、及びEPO中部・協働コーディネーターに過去報告書の活用方法を募ったところ、アーカイブとして活用できるよう公開する提案があった。
- 提案をうけて、全ての過去報告書に掲載されている（過去にEPOが主催等した）セミナー・フォーラム等イベントの抽出を行い、登壇者と登壇タイトルをリスト化した。
- また、EPO中部ウェブサイトに掲載・公開できるよう、登壇者・登壇タイトル等の検索可能なリストファイルを作成し、EPOネットワーク人材リストとしての活用・公開が可能になるよう整理を行った。

※作成したリストの一部

OD整理№	年度(西暦)	報告書名	イベント名	登壇者氏名	登壇者/肩書き	登壇形式:講演/PD	登壇タイトル
EPO-02	2005	平成17年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務報告書(10-12月期)	東邦ガス株式会社「環境レポート2005」を読む	磯村 隆英	東邦ガス株式会社 環境部環境推進グループ係長	講演	「企業からの情報提供に市民はどう応えるか〜双方向のコミュニケーション、対話の場の視点から〜」
EPO-02	2005	オープンフォーラム第1部報告書最終	環境省中部地方環境事務所 中部環境パートナーシップオフィス「パートナーシップがつくる持続可能な地域社会」オープン記念フォーラム	稲垣 隆司	愛知県環境部長	PD	「地域からの環境パートナーシップづくり—EPO中部に期待すること」
EPO-02	2005	オープンフォーラム第1部報告書最終	環境省中部地方環境事務所 中部環境パートナーシップオフィス「パートナーシップがつくる持続可能な地域社会」オープン記念フォーラム	千頭 聡	日本福祉大学情報社会科学部 助教授 中部環境パートナーシップオフィス運営検討会座長	PD	「地域からの環境パートナーシップづくり—EPO中部に期待すること」
EPO-02	2005	オープンフォーラム第1部報告書最終	環境省中部地方環境事務所 中部環境パートナーシップオフィス「パートナーシップがつくる持続可能な地域社会」オープン記念フォーラム	筒井 信之	株式会社創建代表取締役社長 社団法人環境情報科学センター 評議員	PD	「地域からの環境パートナーシップづくり—EPO中部に期待すること」
EPO-02	2005	オープンフォーラム第1部報告書最終	環境省中部地方環境事務所 中部環境パートナーシップオフィス「パートナーシップがつくる持続可能な地域社会」オープン記念フォーラム	村上 千里	特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育の10年推進会議事務局長	PD	「地域からの環境パートナーシップづくり—EPO中部に期待すること」
EPO-02	2005	オープンフォーラム第1部報告書最終	環境省中部地方環境事務所 中部環境パートナーシップオフィス「パートナーシップがつくる持続可能な地域社会」オープン記念フォーラム	奥山 哲也	みえ環境創造リーグ 環境県民運動推進委員	PD	中部7県パートナーシップ・ラウンドトーク
EPO-02	2005	オープンフォーラム第1部報告書最終	環境省中部地方環境事務所 中部環境パートナーシップオフィス「パートナーシップがつくる持続可能な地域社会」オープン記念フォーラム	真田 俊子	特定非営利活動法人エコプラザ さばえ事務局	PD	中部7県パートナーシップ・ラウンドトーク
EPO-02	2005	オープンフォーラム第1部報告書最終	環境省中部地方環境事務所 中部環境パートナーシップオフィス「パートナーシップがつくる持続可能な地域社会」オープン記念フォーラム	戸田 修史郎	社団法人いしかわ環境パートナーシップ県民会議事務局	PD	中部7県パートナーシップ・ラウンドトーク
EPO-02	2005	オープンフォーラム第1部報告書最終	環境省中部地方環境事務所 中部環境パートナーシップオフィス「パートナーシップがつくる持続可能な地域社会」オープン記念フォーラム	辻 英之	特定非営利活動法人グリーンウッド自然体験教育センター事務局	PD	中部7県パートナーシップ・ラウンドトーク
EPO-02	2005	オープンフォーラム第1部報告書最終	環境省中部地方環境事務所 中部環境パートナーシップオフィス「パートナーシップがつくる持続可能な地域社会」オープン記念フォーラム	萩原 喜之	特定非営利活動法人地域の未来・支援センター代表理事	PD	中部7県パートナーシップ・ラウンドトーク

■ 環境基本計画に沿った環境教育支援業務

- 環境基本計画(地域循環共生圏)を踏まえたSDGs普及啓発のための取組を下記の通り、実施した。

EPO中部/PECとやま presents
地域におけるSDGs実践セミナー2019

地球温暖化や貧困、紛争など、人類の生存・繁栄を脅かす世界的な複数課題を、全人類で協力し合って統合的に解決しようとする世界共通の行動目標SDGs(エスディーゼーエス:持続可能な開発目標)。
地域においてはどのような実践が必要なのか、環境省が提示する「地域循環共生圏」と「同時解決事業」という2つテーマを取り上げて、富山県内2カ所(南砺市、黒部市)にて事例と共に学びます。

参加 対象: SDGsの実践について学びたい北陸・信州地域の自治体、企業、団体、一般の方

～「地域循環共生圏」と「同時解決事業」をテーマに～

2019年8月26日(月) 13:30～16:30 会場: 地域循環共生圏
講師: 南砺市クリエイティブプラザ 桜クレエ 多目的ホール/カフェリアン
講師: 黒部 康志 公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES) 持続可能な地域と企業連携 主任研究員/リサーチマネージャー
主催: 南砺市 協賛: 北陸株式会社

2019年11月28日(木) 13:30～16:30 会場: 同時解決事業
講師: 立山原野ジオパーク交流施設 わくわく広場うなジオ
講師: 長井一浩 一般社団法人Green Down Project 理事/NGO法人研日會 代表理事
主催: 富山県環境政策課 協賛: 一般社団法人でん、中野環境、手取自治会

主催: 環境省中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)
一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま(PECとやま) Tel. 076-400-8305 https://www.pectoyama.org/

環境市民プラットフォーム(PECとやま)と連携して「SDGs実践セミナー」を富山県内で2回開催

【第1回】テーマ: 地域循環共生圏

日時: 2019年8月26日

場所: 富山県南砺市

参加者: 見学会22名、セミナー36名

【第2回】テーマ: 同時解決事業

日時: 2019年11月28日

場所: 富山県黒部市

参加者: 44名

セミナーに参加した効果・影響、学びへのつながりなどについて事後調査も実施。

- また、2回のセミナー終了後(2月初旬)、参加者を対象に、主体的な学びの発信、実践、パートナーシップの構築にセミナー参加が繋がった事例についての聞き取り調査を行ったところ、13例が確認できた。

【事例の一つ】宇奈月自立塾、(一社)でんき宇奈月、旅館「喜泉」

- 今年度、林野庁の「地域内エコシステム」事業で、地域材を用いた薪ボイラースキームの実証実験に取り組む。その一環として黒部のセミナーに3者共に参加。参加後に、下記のような活動につながった。
- 薪製造担当の「宇奈月自立塾」は、自主性・主体性が増し、軽トラックを購入するなど、薪ビジネスを本格化し始めた。
- 旅館「喜泉」は、セミナーを経てこのスキームの社会的意義も実感し、薪ボイラー導入を決意。実証実験パートナーの森のエネルギー研究所、日本林業技術協会と具体的な導入について検討を始めている。
- 「でんき宇奈月」は本プロジェクトのとりまとめ役として、本件を林野庁の成果発表会（2月12日東京麹町）にて事例発表し、事後、参加者から同様のスキームを検討したいとの相談要請を受けた。

■ 関係主体との連携及び協働に関する業務

■ 中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換

- 中部地方環境事務所の担当官との定期的な打合せを月1回以上実施し、業務の進捗状況、方向性などについて協議を行った。
- 日々の業務について、毎月、所定の様式の報告書を作成し、中部地方環境事務所へ提出した。

■ 中部地方環境事務所が開催する会議への出席、企画作成支援、必要な資料の作成等

実施日	実施内容
7月24日	第16回地球温暖化に関する中部カンファレンス参加
10月3日	第17回地球温暖化に関する中部カンファレンス参加
1月9日	第18回地球温暖化に関する中部カンファレンス参加
1月30日	2019年度業務の説明、自己評価シート、前年度課題対応状況資料等の作成

■ 記者発表対応の実施

- 11月4日開催・ESDネットワーク地域フォーラムについての記者発表を行うことになり、記者発表用の資料を作成（作成はCSOラーニング生のインターン学生）し、10月2日に投げ込みを行った。
- 11月23日開催・協働フォーラム（飯山市で開催）の広報展開に際し、開催案内チラシを地元メディア4社に送付した。

■ プラットフォーム構築事業の採択団体の支援等

【プラットフォーム構築事業採択団体へのヒアリングの実施】

- 次の団体にヒアリングを実施し、その結果を所定の書式にとりまとめた。

採択団体（ヒアリング対象）	実施日	ヒアリング方法
七尾街づくりセンター株式会社（石川県七尾市）	11月12日	視察中、意見交換会での意見を聴取
国立大学法人富山大学（富山県富山市）	11月13日	
スマート・テロワール協会（長野県北信エリア／小布施町）	11月24日	意見交換会の終了後に聴取
おわせSEAモデル協議会（三重県尾鷲市）	11月28日	
長野県根羽村（矢作川流域／根羽村）	12月3日	意見交換会実施の後日に電話で聴取

【情報収集（その他関連組織等の情報収集、ヒアリング）の実施】

- 地域循環共生圏構築に発展可能性を有する組織として、次の団体にヒアリングを実施し、その結果をとりまとめた。

対象団体	実施日	ヒアリング方法
南砺市（富山県南砺市）	8月26日	担当者に面談して聴取
NPO 法人泉京・垂井（岐阜県垂井町／揖斐川流域）	1月21日	
株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ（富山県上市町）	2月7日	

■ 全国・各地方とのネットワークの活用及び連携の確保・強化

- 全国の地方EPO・GEOC・ESD活動支援センター等から招請のあった会議・イベント等の会合（ウェブ会議含む）は今年度、計20回開催されており、EPO中部は全てに出席した。